

待降節第四主日

2017. 12. 24

ルカ 1 ・ 26-38

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

待降節も第四主日です。クリスマスの間近に控えた今のわたしたちの心の中には、どのような想いがよぎっているのでしょうか。テレビのニュースが伝える、イエスがそこでお生まれになったベツレヘムの現実には、わたしたちの心をも暗くします。

けれども、このような時代を生きるカトリック信者であるわたしたちにとって、それは必ずしも悲しむべきことだけではありません。クリスマスは、このわたしたちの世界を覆う暗い現実の中に神がもたらされる希望の光を見つめることを求めていることを、わたしたちは知っているからです。クリスマスは、わたしたちをそのおとぎ話のような世界に誘って、つらい現実の中で一時の安らぎを味あわせようとしているではありません。むしろ、今年もわたしたちが祝うクリスマスは、神が与えてくださった希望の光を思い起こすことを求めているのです。その希望の光に導かれて、わたしたちの社会を覆う暗い不安の中から立ち上がって歩み続けることを、わたしたちに求めているのです。今年もクリスマスを迎えて、わたしたちがその誕生を祝うわたしたちの主イエス・キリストは、あの時代のユダヤの社会の現実の中にお生まれになったように、この時代を生きるわたしたちの中に、わたしたちの歩みを導くために、わたしたちと共にいてくださるのです。ここに、クリスマスが今年もわたしたちの心の中に灯す希望の光の源があるのです。

今日待降節第四主日の福音は、お告げの場面です。ナザレの乙女マリアのもとに天使ガブリエルがもたらした神からのお告げによって、クリスマスはわたしたちの世界にもたらされたのです。

旧約のイスラエルの民の歴史を通して、神が長い長い時をかけて構想を温めておられたクリスマスの出来事は、天使ガブリエルによって救い主の母となる

べきナザレの乙女マリアに示されたのです。天使ガブリエルは、聖書の中でここに始めて登場する天使ではありません。天使ガブリエルは、旧約聖書のダニエル書の中で、ダニエルが見た幻の意味をダニエルに語って聞かせた天使です。そして、ダニエルのその幻は、古代オリエントの世界を支配した世界帝国の勢力の盛衰が、最終的には全てのものの創造主である神の支配の下にあることを示す幻だったのです。ダニエルにこの世界の歴史を導く神の支配を語り聞かせた天使ガブリエルは、今、新たに神から遣わされて、ナザレの乙女マリアに、隠されていた神のご計画の実現の時を告げているのです。

「おめでとう」と訳されているマリアへの天使の第一声は、「喜べ！」という意味の「おめでとう」です。何故天使が「喜べ！」と告げたかということ、ナザレの乙女マリアが、神がこの世界の歴史の中にもたらそうとしておられるクリスマスの最初の受領者となるからです。そしてそれは、全くの神の発意としての、神の恵みによることであるのです。その意味で、天使はマリアに、「あなたは神によって恵みを受けた」と告げているのです。クリスマスの夜、マリアから生まれることになっている子に「イエスと名づけなさい」と天使は告げます。「主は救い、主は救われる」というその名は、抽象的に主の救いを意味しているわけではありません。それは、この世界の中で旧約のイスラエルの民をここまで導いてきた神の御計画の中に目指されていた、神の救いを告げているのです。

クリスマスを祝うということは、わたしたちもナザレの乙女マリアのように、神によるクリスマスの恵みの受領者となるということです。クリスマスの恵みの受領とは、「神は救われる」というマリアから生まれる子がもたらす、神の約束の受領を意味しています。それこそがこの時代を生きるわたしたちに残された救いの希望となるのは、わたしたちを取り巻くこの世界が、わたしたちに約束していたものをことごとく裏切る現実をわたしたちのこの目で見ているからです。

ダニエルが見た幻は、この世界に平和と繁栄を実現しようとした古代オリエントの諸帝国の没落と滅亡を告げる幻だったのです。この世界に平和と繁栄をもたらすために、これらの帝国が目指した世界の統一は、度重なる悲惨な戦争に世界を巻き込み、その支配下に生きた人々に搾取と隷属しかもたらさなかつ

たのです。旧約の時代を生きたイスラエルの民の歴史は、そのような暴力と欺瞞に満ちたこの世の支配のもとに生きた人々の苦難の歴史を語っています。そしてそれは、今の時代のわたしたちの歴史とも無縁ではありません。

しかし、ダニエルが見た幻は、そのような世界の現実の中に隠されている、神の御計画を予告していたのです。その幻の意味をダニエルに解き明かした天使ガブリエルが、ナザレの乙女マリアに告げたことこそが、このような歴史を導かれる神の御計画が目指していたことであったのです。

「ご覧ください、ここに、あなたのはしためがあります。御心のままにこのはしためをお使いになってください」。ナザレの乙女マリアは、この世界の歴史を導く神の御計画に全身全霊をもって応えることによって、この世界に神の御計画を実現する栄誉を受けて、救い主の母となりました。

けれども、その聖母の栄誉は、この世界の中では隠されままであったのです。こうして聖母マリアは、ローマ皇帝の勅令によって実施された人口調査のあおりを受けて、ベツレヘムの馬屋でイエスの母とられたのです。

聖母マリアが天使のお告げを通して受領されたクリスマスがそこにあります。そして、わたしたちが祝うクリスマスも、いつもあの馬屋に戻らなければならないのです。

この時代を生きるわたしたちは、この時代に神がわたしたちに求めておられるクリスマスを迎えたいと思います。神のみが与えることの出来る希望の光に信頼して、この時代の現実に目を開きつつ、クリスマスを迎えたいと思います。